



## 大名庭園と 島津家別邸

名勝仙巖園は、江戸時代初期の万治元年（1658）、島津家19代光久によって築かれた薩摩藩主島津家の別邸です。目前の桜島を築山に、錦江湾を池に見立てた壮大な庭園は、数ある大名庭園の中でも他に類をみないスケールの大きさです。また、海外とつながる「南の玄関口」といわれた薩摩の歴史にふさわしく、中国・琉球文化の影響が園内随所に見られます。歴代当主に愛されたこの庭には、徳川将軍家に嫁いだ篤姫や海外の要人も足を運びました。美しい景色、歴史や文化を今に伝える大名庭園・仙巖園を、どうぞ、お楽しみください。

## 観

### 御殿見学で 島津家当主の暮らしを体感

島津家歴代が暮らし、国内外の賓客をもてなした御殿。古写真や調度品で往時の島津家の優雅な生活をしのぶことができます。



ご案内時間 9:30~17:00 (最終入場 16:50)

料金 大人(高校生以上) ..... 500円  
小・中学生 ..... 250円  
(入園料別途)

受付 御殿玄関にお越し下さい



## 仙巖園・尚古集成館

## 催 武家の伝統を今に伝える 四季折々の催し



春

薩摩のひなまつり  
流しびな  
曲水の宴



夏

五月幟の展示  
朝顔の展示  
島津家伝統 七夕飾り



秋

菊まつり  
持明祭  
弓馬術礼法小笠原流 草鹿式



冬

大門松の展示  
お正月イベント

### おすすめコース

#### ● 初心者向けの基本コース

とっても広い仙巖園。どこからどこまで見たらいいのでしょうか？ 大事なところをしっかりと押さえた、初めての方向けの基本コースをご紹介します。



仙巖園 〒892-0871 鹿児島県鹿児島市吉野町 9700-1  
尚古集成館 TEL.099-247-1551 <http://www.senganen.jp>  
f t i YouTube tripadvisor



国際連合教育科学文化機関

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization



明治日本の産業革命遺産  
製鉄・製鋼・造船・石炭産業  
世界遺産登録年:2015年

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution:  
Iron and Steel, Shipbuilding and Coal Mining  
inscribed on the World Heritage List in 2015



## 世界文化遺産 「明治日本の産業革命遺産」

2015年7月「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録されました。鹿児島市の構成資産「旧集成館」は、仙巖園や尚古集成館 1 帯を含むエリアです。ここでは、島津家28代斉彬が他に先駆けて近代化・工業化に取り組み、日本最初の洋式工場群「集成館」を設置しました。斉彬亡き後も、彼の志を受け継ぐ人々が集成館を舞台に強く豊かな国づくりを目指します。そして、彼らが培った技術が、近代日本の中核となり、工業国・技術大国の原点となりました。現在、この地は「日本の近代化・工業化発祥の地」として世界から注目されています。

## 食

### こだわりの料理と 桜島・錦江湾の絶景を堪能



D 桜華亭 | 営業 11:00~15:30

おちついた空間で、島津家や薩摩の伝統料理をお楽しみください。眺めのよいカウンター席もご用意しています。

A 両棒餅屋 | 営業 9:00~17:00

両棒餅は2本の串が刺さった一口大のお餅で江戸時代より愛されてきました。素朴な鹿児島名物をぜひご賞味ください。



# 園内マップ

(→ おすすめコース)



- トイレ
  - 車椅子対応トイレ
  - 授乳室
  - 待合室
  - コインロッカー
  - レストラン
  - ショップ
  - カフェ
  - 自動販売機
  - 階段
  - タクシー
  - バス
  - ATM
  - 救護室
  - 喫煙所
  - 免税カウンター
  - 自動体外式除細動器
  - 撮影ポイント
  - 通行不可
- 申し訳ございませんが  
車椅子では通行できません

## 01 反射炉跡



鉄製大砲の鑄造のため、28代斉彬が築いた施設の跡です。斉彬たちは実物を見ず、オランダの書物を参考に苦心して建設しました。かつてはおよそ20mの高さの炉がそびえており、洋式工場群「集成館」の中核でした。

## 02 御殿



江戸時代は別邸として、明治からは一時本邸として使用された御殿。現存する御殿は明治17年(1884)に改築された建物が主体となり、藩主の部屋はすべて最高級の屋久杉で造られ、当時の雰囲気を感じていただけます。

## 03 尚古集成館 本館



現在、島津家800年の歴史や文化を紹介する博物館・尚古集成館 本館として使用されている建物は、慶応元年(1865)に竣工した、現存する日本最古の石造洋式機械工場「旧集成館機械工場」です。

## 04 薩摩切子工場



吹きガラスからカット・磨きまで、すべての工程を見学できます。美しい薩摩切子と職人の高度な技術をご体感ください。

## 09 正門



明治28年(1895)、29代忠義が建てさせた正門です。建材は樟が使用されています。門の上部中ほどに島津家の家紋・丸十紋が、その左右には同じく島津家の家紋である桐紋が彫られています。

## 11 錫門



この門は屋根を錫で葺いていることからその名があります。錫は薩摩の特産品です。江戸時代は、藩主とその世子(嫡男)だけが通ることを許された正門でした。

## G 島津薩摩切子ギャラリーショップ 磯芸館



切子工場に隣接する、島津薩摩切子の直売店。国登録有形文化財の洋館をショップに利用しており、そのレトロな雰囲気も一見の価値ありです。薩摩切子の他、地元作家の作品を多数取り揃えています。

## 14 鶴灯籠



安政4年(1857)、28代斉彬は鶴灯籠を用いてガス灯の実験を行いました。この後、城下町をガス灯で灯す計画を立てますが、志半ばで急死。豊かな国づくりを目指した斉彬の想いを象徴するものです。

## 島津家歴代のくらしを体感

仙巖園の御殿は万治元年(1658)、島津家19代光久によって建てられ、数百年の歴史の中で、建て直しや増改築が行われました。島津家歴代がこよなく愛し、幕末以降は国内外の賓客をおもてなしするための施設としても用いられました。

29代忠義は、仙巖園を本邸と定め、御座の間などを改築。30代忠重が跡を継ぐと、住まいを東京に移したため、邸宅は縮小されましたが、鹿児島に帰ってきた時の邸宅として維持・管理されました。

和の趣の中にたたずむ風水を取り入れた作庭や西洋風の調度品を通して、公爵島津家の暮らしぶりを今に伝えています。

## Experience the lifestyle of the Shimadzu Family

The house at the centre of Sengan-en was built in 1658 by the 19th head of the Shimadzu family, Mitsuhiisa. The house was rebuilt and expanded over the years, and has been lovingly passed down in the Shimadzu family until today.

The house was visited by royalty such as Edward VIII of the UK and Nicholas II of Russia, and features a fascinating mix of Japanese, Chinese, and Western influences, showing the truly international nature of the Shimadzu family.



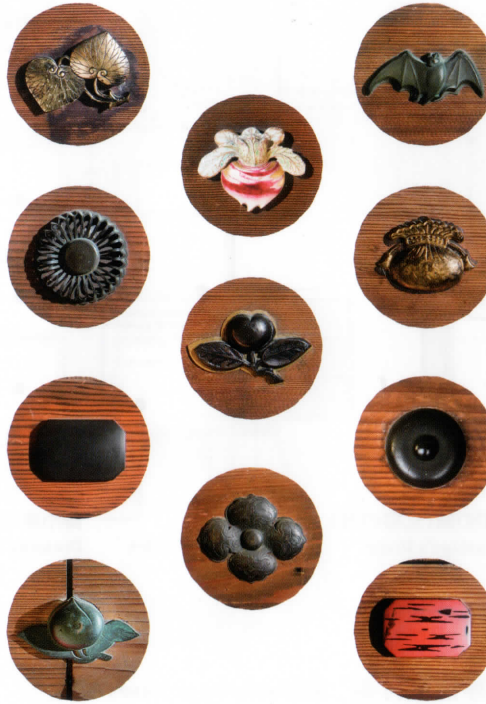
明治初期の御殿（尚古集成館所蔵）

## 「釘隠し」


日本建築にみられる伝統的な装飾品が、御殿内に多数あります。写真にぜひお収めください。

Explore the house lived in by Prince Shimadzu

Find all of the decorative kugi kakushi used to hide the nails joining the beams and pillars around the house.



仙巖園 尚古集成館 〒892-0871 鹿児島市吉野町 9700-1  
9700-1 Yoshino-cho, Kagoshima City, 892-0871  
TEL.099-247-1551 <http://www.senganen.jp>

Sengan-en Shoko Shuseikan     



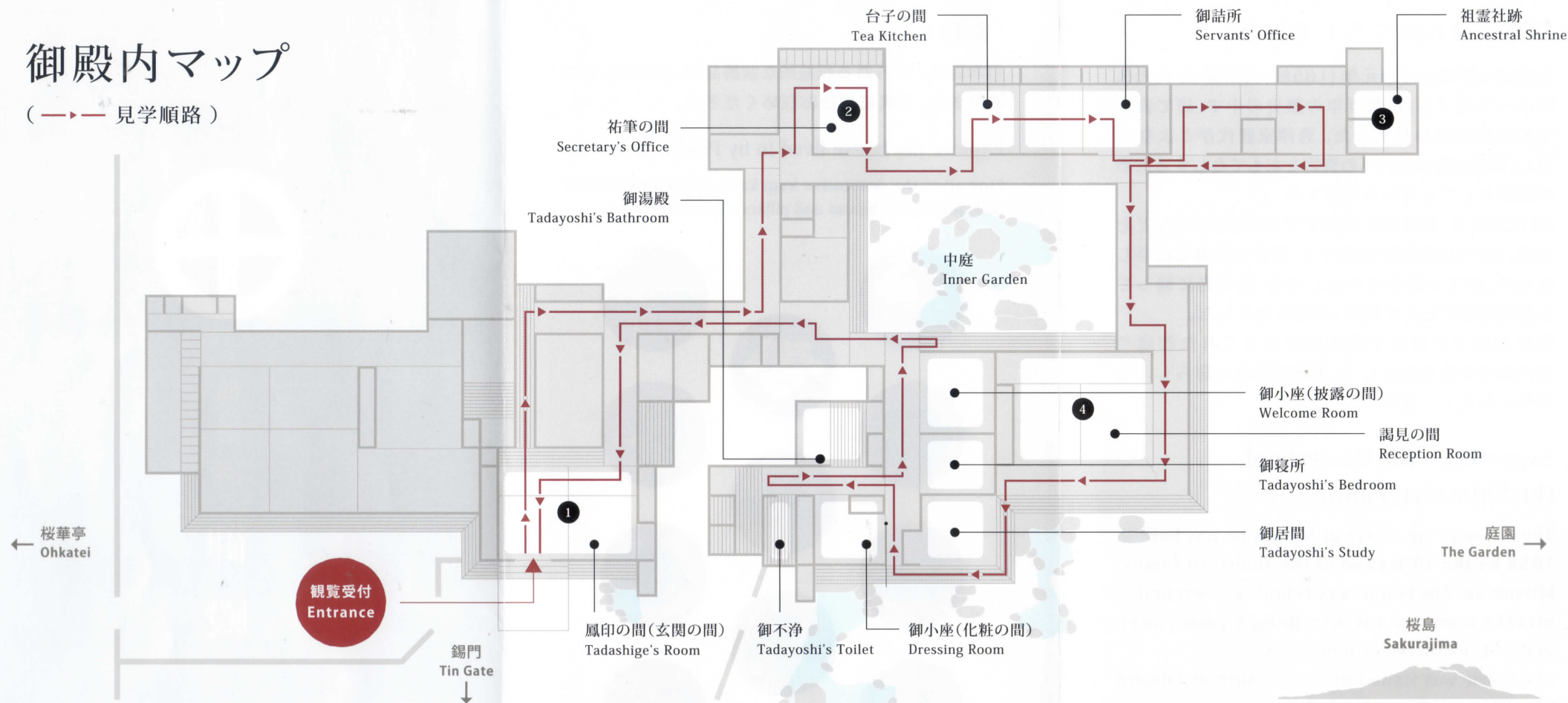
仙巖園御殿

Sengan-en  
THE HOUSE



# 御殿内マップ

( → 見学順路 )



## 1 鳳印の間(玄関の間) Tadashige's Room



島津家の世継ぎの部屋です。床の間の甲冑はニコライ2世が仙巖園を訪れた際、島津家30代忠重が装着していた複製品です。大正時代に改築され、玄関になりました。

This room was lived in by the 30th generation head of the Shimadzu family, Tadashige, from his birth in 1886 until the time he moved to Tokyo at the age of 12. Tadashige became the head of the Shimadzu family following the death of his father in 1897 and took the title of Prince Shimadzu.

## 2 薩摩焼蓋付壺 Satsuma-ware Vases



ニコライ2世がロシア皇帝に即位した際、島津家が贈った複製品です。

This stunning pair of vases are a replica of a set sent as a gift to Nicholas II of Russia on his coronation as Emperor of Russia by Shimadzu Tadayoshi in 1896.

## 3 神馬 Sacred Horse



島津家歴代を祀っていた祖霊社の跡には、園内の神社に奉納されていた神馬が展示されています。

This was the location of the Shimadzu family ancestral shrine. The sacred horse in this room was originally displayed at one of the shrines at Sengan-en.

## 4 謁見の間 Reception Room



賓客と面会するために用いた部屋です。丸十紋が施されたシャンデリアに灯されたこの部屋は、明治17年(1884)に改築されました。

This room was used to receive important guests. The two rooms and surrounding hallway could be used to welcome many guests at once. The chandeliers in this room were order made in London and feature the cross in a circle crest of the Shimadzu family.